

第42回 日本骨・関節感染症学会

The 42nd Annual Meeting of
Japanese Society for Study of Bone and Joint Infections

プログラム・抄録集



2019年
7月19日金・20日土

パシフィコ横浜
アネックスホール

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

整形外科感染症治療の
ブレークスルーをめざして

会長 松下 和彦

川崎市立多摩病院(指定管理者: 聖マリアンナ医科大学) 整形外科部長
聖マリアンナ医科大学整形外科学講座 病院教授

第42回 日本骨・関節感染症学会

The 42nd Annual Meeting of
Japanese Society for Study of Bone and Joint Infections

プログラム・抄録集

整形外科感染症治療の ブレークスルーをめざして

2019年
7月19日金・20日土

パシフィコ横浜
アネックスホール

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

会長 松下 和彦

川崎市立多摩病院 (指定管理者：聖マリアンナ医科大学) 整形外科部長
聖マリアンナ医科大学整形外科学講座 病院教授

会長挨拶

第42回日本骨・関節感染症学会 開催にあたって

第42回日本骨・関節感染症学会

会長 松下 和彦

聖マリアンナ医科大学整形外科学講座 病院教授
川崎市立多摩病院(指定管理者：聖マリアンナ医科大学)
整形外科部長



この度、第42回日本骨・関節感染症学会を、2019年7月19日(金)～7月20日(土)の2日間にわたり、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)において、聖マリアンナ医科大学整形外科学講座で開催する運びとなりました。

本学会は、昭和53年に日本骨・関節感染症研究会として設立、平成21年に日本骨・関節感染症学会と名称変更、さらに本年4月より社団法人化いたしました。演題数も増加し、会期を2日間にしても第2会場が必要になってきました。今回も「講演は一つの会場で全員で聞く」とのコンセプトを継承いたしました。

今回の学会テーマは「整形外科感染症治療のブレークスルーをめざして」です。

昨年7月に、「人工関節周囲感染対策における国際コンセンサス」が、「整形外科感染対策における国際コンセンサス：人工関節周囲感染を含む筋骨格系感染全般」として改訂されました。シンポジウム1では、第2回国際コンセンサス会議に出席された先生方にそのトピックスを講演していただきます。また、内因性感染におけるSSIの感染経路を少しでも明らかにするため、シンポジウム2として「SSI原因菌の侵入経路とその対策」を、シンポジウム3として「インプラント術後感染におけるインプラントの温存」を企画いたしました。

ポスター発表につきましては、本年は最優秀ポスター賞を設けました。是非獲得を目指していただければと存じます。

今回の共催セミナーのご講演は下記のとおりです。

1日目

- ランチョンセミナー1：河野 俊介 先生(佐賀大学医学部 人工関節学講座)
「銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングインプラントの抗菌性と骨固定性」
- 会長特別企画講演：國島 広之 先生(聖マリアンナ医科大学 感染症学講座)
「マイクロビオータと感染症」

- アフタヌーンセミナー(2講演)

山田 浩司 先生(関東労災病院 整形外科・脊椎外科)

「MSIS 国際コンセンサスから見た SSI の予防と抗菌薬治療」

小林 直実 先生(横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科)

「PJI の診断と治療 ～ ICM2018 update と最新知見～」

2日目

- ランチョンセミナー2：内山 勝文 先生(北里大学医学部 整形外科学)

「人工股関節周囲感染対策：診断と治療」

- スイーツセミナー：Jason Jeninngs 先生(Colorado Joint Replacement)

「パルス式キセノン紫外線消毒 ―ターミナルクリーニングにおける使用経験」

2日目の最後に ICD 講習会を併催いたします。杏林大学整形外科の森井健司先生に「骨軟部腫瘍診療における感染対策」を、聖マリアンナ医科大学感染症学講座の國島広之先生に「AMR(薬剤耐性)に関する最近の話題」をお話し頂きます。

ハンズオンセミナーの3企画を含め、今回の学会が整形外科感染症治療のブレイクスルーのきっかけになることを期待しています。

お一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

お知らせ

I 参加者へのお知らせ

1. 参加受付

7月19日(金) 8:00～17:30

7月20日(土) 7:30～16:00

場 所：パシフィコ横浜 アネックスホール ホワイエ

2. 参加費

医師・一般 12,000円

研修医・メディカルスタッフ 6,000円

(看護師、理学療法士、薬剤師 等)

本誌巻頭に綴じ込みの参加申込書に必要事項をご記入の上、参加受付にて参加費をお支払いください。

3. プログラム・抄録集(一部：1,000円)

会員の方には事前に送付しておりますが、別途購入希望の方は当日受付にてお求めください。なお、数量には限りがありますので、予めご了承ください。

4. 呼び出し

各会場内での放送やサブスクリーンによる呼び出しは行いません。

5. 掲示板、伝言板

受付付近に設置しますので、ご自由にご利用ください。

6. 食 事

両日ともにランチョンセミナーをご用意いたしますのでご利用ください。

なお、整理券方式は採用しません。

7. 録音・撮影

会場内での録音および写真・ビデオ撮影は固くお断りいたします。

8. 携帯電話・スマートフォンの使用について

携帯電話・スマートフォンは、あらかじめ電源をOFFにするか、マナーモードに設定してください。会場内での通話をご遠慮ください。

9. 年会費・新入会・住所変更

総合受付内の学会事務局受付にて行います。

10. 会議のご案内

理事会 日時：7月18日(木) 16:00～18:00

場所：華正樓 横浜中華街本店 1階 会議室

総 会 日時：7月19日(金) 13:00～13:45

場所：パシフィコ横浜 アネックスホール 第1会場

Ⅱ 発表者へのお知らせ

1. 発表時間

シンポジウム：事前にご案内した発表、質疑時間をお願いします。

一般演題（口演）：発表5分、質疑応答3分

一般演題（ポスター）：発表3分、質疑応答2分

※何れも発表時間は厳守してください。

2. 口演発表

- PC プレゼンテーション(1面)となります。
- データ、PC 本体の持ち込みのどちらでも可能です。ただし、動画が含まれる場合や Macintosh をご利用の場合は、必ずご自身の PC 本体をご持参ください。
- 演者は担当セッション開始10分前までに次演者席にご着席ください。
- 発表は、演台にモニター、マウス、キーボードを用意しますので、ご自身の操作で進めてください。
- 発表時間終了の1分前に黄色ランプが、発表時間終了は赤色ランプでお知らせします。
- お預かりしたデータは、学会終了後に責任を持って消去します。

3. 口演発表データ作成方法

- 発表データは、Microsoft PowerPoint2010以上での作成・保存をお願いします。
- 出力解像度は XGA (1024 × 768) です。このサイズより大きい場合、スライド周辺が切れてしまいますので、画面の設定を XGA に合わせてからレイアウトの確認を行ってください。
- フォントは Windows 版 Microsoft PowerPoint に標準装備されているものをご使用ください (MS・MSP ゴシック、MS・MSP 明朝、Arial、TimesNewRoman、Century 等)。
特殊なフォントを使用されますと、代替フォントが使用され、レイアウトが崩れることがあります。特殊なフォントを使用される場合は画像化し、オブジェクトとして貼り付けてください。
- 動画ファイルを内蔵しているデータの場合は、所定の動画フォルダに動画データが格納されていることをご確認ください。また、他の PC での動作確認を必ず事前に行ってください。
- 音声出力や動画出力がある場合は、必ず PC 受付スタッフにお申し出ください。
- メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルスソフトを使用してウイルスチェックを行ってください。
- 「発表者ツール」を使用したご発表はできませんので、ご留意ください。

4. PC 受付について

受付時間：7月19日（金）8:00～17:30

7月20日（土）7:30～16:00

場 所：パシフィコ横浜 アネックスホール ホワイエ

【データをご持参の場合】

- 発表データは、USB または CD-R にてご持参ください。なお、USB、CD-R は、最新のウイルスソフトを使用してウイルスチェックを済ませたものをご持参ください。
- データは、学会が用意するサーバーにいったんコピーしますが、学会終了後に責任を持って消去します。

【PC を持ち込まれる場合】

- 持ち込みが可能な機種は、Windows7以降が動作する機種または Macintosh で、モニター出力端子に D-Sub15 ピンが装備されているものに限り（薄型 PC では出力端子の規格が異なることがあります）。出力の規格が異なる場合は、接続用の端子を必ずご持参ください。また、操作機器の接続に USB ポート（Type-A）を使用します。USB ポートのない PC をお持ち込みになる場合は、変換コネクタも合わせてご持参ください。（例：MacBook USB Type-C から USB Type-A 変換）
- バッテリーでの発表はトラブルの原因となりますので、電源アダプターは必ずご持参ください。
- PC のスリープ機能、スクリーンセーバーや省電力機能など、発表の妨げとなる設定はあらかじめ解除してください。また、「発表者ツール」を使用したご発表はできませんので、ご留意ください。
- 万が一に備え、別途バックアップデータをご持参ください。
- データは、最新のウイルスソフトを使用してウイルスチェックを済ませたものをご持参ください。
- PC 本体は、PC 受付で外部出力及び動作確認を行った後、発表の20分前までに次演者席付近に設置してある PC オペレーター席へ、各自でご持参ください。PC 受付ではお預かりしません。また、発表は舞台上のマウス、キーボードをご自身で操作して進めてください。

5. 原稿提出のお願い

口演内容は「日本骨・関節感染症学会雑誌」として発行いたしますので、投稿規定に基づき、学会当日に PC 受付に提出してください。あるいは会期初日から1ヶ月以内に日本骨・関節感染症学会へご郵送ください。

日本骨・関節感染症学会事務局

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林大学医学部整形外科学教室

6. ポスター発表

• スケジュールについて

	7月19日(金)		7月20日(土)
演題番号	P1-1～P1-8	P2-1～P2-8	—
貼付	午前11時まで		—
発表	17:30～18:10		—
撤去	発表が終了しても撤去しないでください		16:00以降

※押しピンは各パネルにご用意します。

※ポスター発表者の受付はありません。発表時間10分前までにご自身のポスターパネル前に待機してください。

※撤去時間を過ぎて撤去されなかったポスターは、運営事務局で処分いたします。

• 演題発表用パネルについて

- 1) ポスターパネルのサイズは、縦210 cm×横90 cmです。
- 2) 演題番号は、事務局で用意します。
演題名・所属・演者名は、ポスターの中に収めてください。
- 3) 貼付スペース：縦160 cm×横90 cmに収まるようにしてください。
なお、パネルの下の方は見えにくいので、見やすい展示を心がけてください。



Ⅲ 質問者へのお願い

質疑は座長の指示に従い、所属・氏名を必ず述べてください。質問内容は要点をまとめて、簡潔にお願いします。

Ⅳ 座長へのお願い

- 口演発表の座長は、ご担当セッション開始時間の10分前までに、次座長席にお越しください。
- ポスター発表の座長は、ご担当セッションの10分前までに、総合受付のポスター座長受付にお立ち寄りください。座長用リボンと指示棒をお渡しします。
- 制限時間内で、十分な討論進行をお願いいたします。

Ⅴ 利益相反(COI)の開示

- 利益相反の有無にかかわらず、発表時には、スライド(1枚目)もしくはポスター(ポスターパネルの右下)でCOI状態を開示してください。
- 発表者は、過去1年における、発表内容と関連のある企業とのCOI状態を開示してください。

Ⅵ 第309回 ICD 講習会について

定員となりましたので受付は終了いたしております。

ICD 講習会のみに参加される際は、学会参加費は無料です。

※ ICD 講習会の当日申込受付は行いません。

ICD 講習会および各種申請等についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

ICD 制度協議会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目28-8 日内会館 2F

一般社団法人 日本感染症学会事務局内

TEL : 03-5842-5845 FAX : 03-5842-5846

E-mail : icd@theia.ocn.ne.jp

日本整形外科学会教育研修講演のご案内

本学会の、ランチョンセミナー2題、アフタヌーンセミナー1題、スイーツセミナー1題を日本整形外科学会認定の教育研修講演として開催いたします。

1. 聴講は自由ですが、研修単位を必要とする場合に限り、総合受付内の教育研修講演受付で受講料(1講演につき1,000円)をお支払いください。
2. 申込方法
 - 1) 教育研修講演受付にて、本誌巻頭綴り込みの申込書に必要事項を記入の上、日展会 IC カードと受講料(1講演1,000円)を添えてお申込みください。
 - 2) 受講料は講演中止などの理由以外では払い戻しいたしません。また、受講取り消し・変更の手続きや領収書の再発行はいたしません。
 - 3) 教育研修講演受講のために入場される方も、学会参加費が必要です。

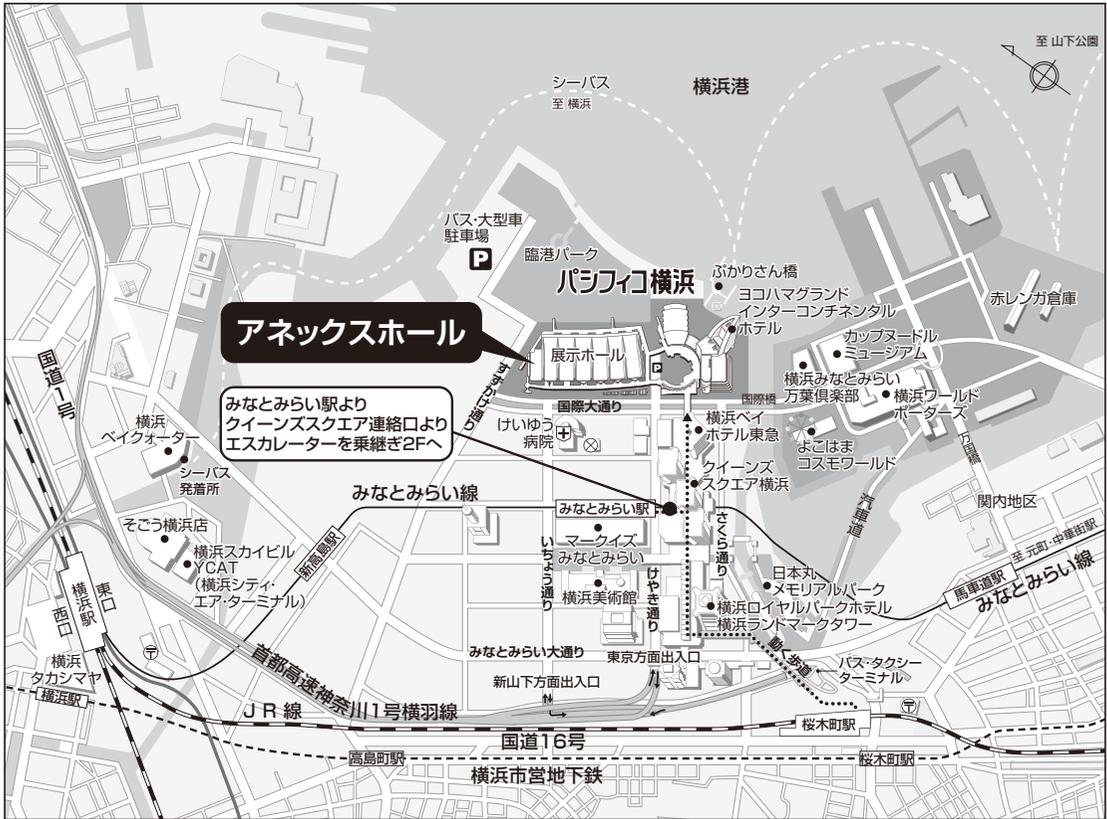
ご 注 意

- 会場には、講演開始後10分までに入場してください。10分後に入場されましても受講単位は認められません。また、途中退場される場合も受講単位は認められません。
- 受講申込は、該当セミナーの席および配布物(お弁当等)の保証とはなりません。

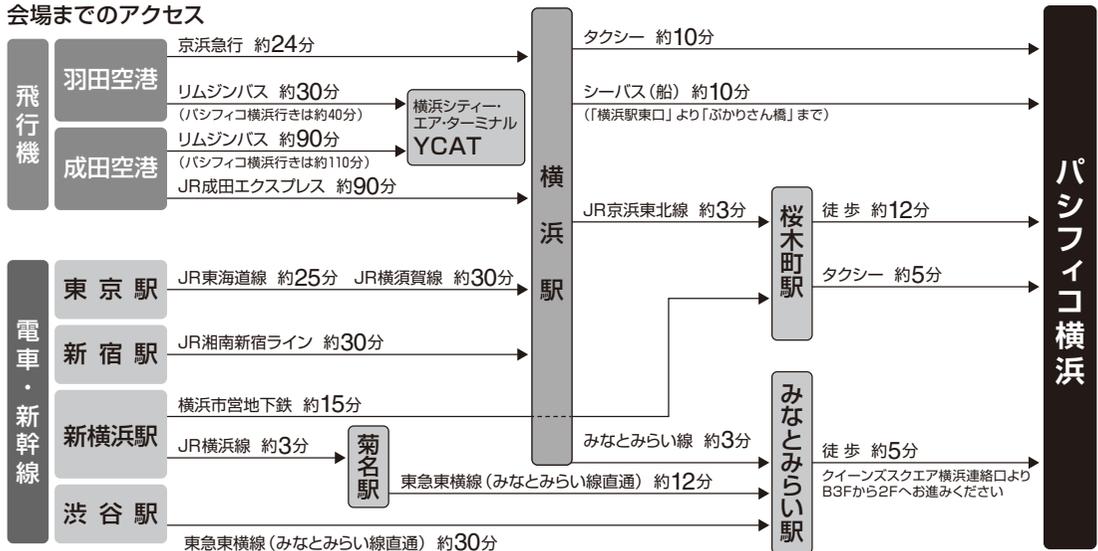
日本整形外科学会教育研修講演一覧

セッション	日時・会場	講演名・講演者名	取得単位	必須分野	認定番号
ランチョンセミナー1	7月19日(金) 12:00~13:00 第1会場	銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングインプラントの抗菌性と骨固定性 河野 俊介	N	[6] [11]	19-0940-001
アフタヌーンセミナー	7月19日(金) 16:30~17:30 第1会場	MSIS 国際コンセンサスから見た SSI の予防と抗菌薬治療 山田 浩司	N	[6]	19-0940-002
		PJI の診断と治療 CM2018update と最新知見 小林 直実			
ランチョンセミナー2	7月20日(土) 12:00~13:00 第1会場	人工股関節周囲感染対策：診断と治療 内山 勝文	N	[6] [11]	19-0940-003
スイーツセミナー	7月20日(土) 14:30~15:30 第1会場	Pulsed Xenon Ultraviolet Disinfection-Its Use in Terminal Cleaning in the Hospital Setting Jason M. Jennings	N	[6]	19-0940-004

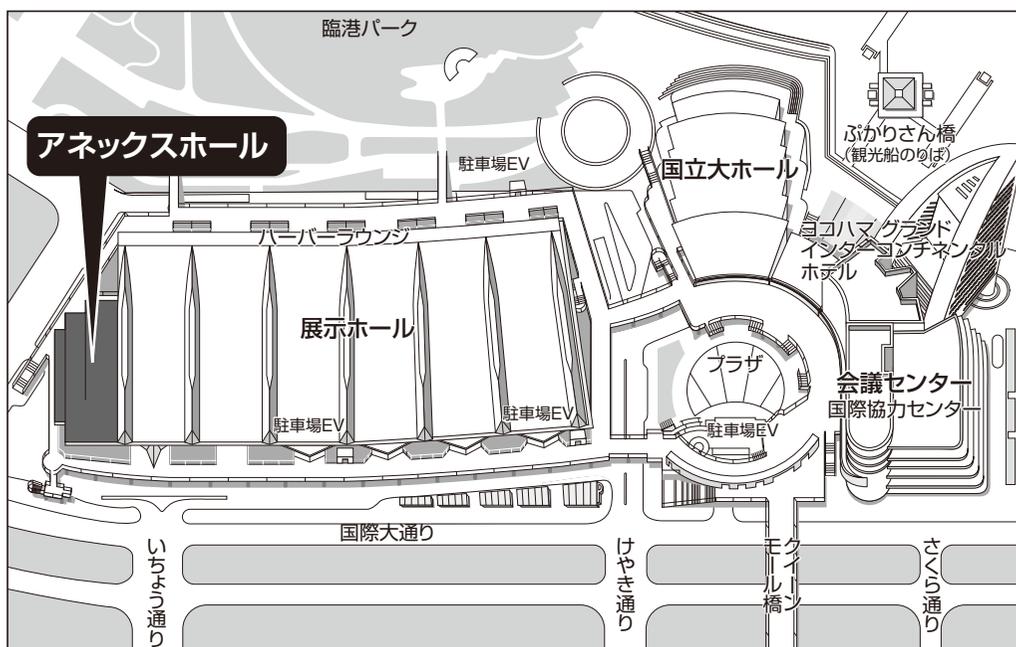
交通案内図



会場までのアクセス



会場案内図



アネックスホール

2階



日 程 表

アネックスホール 2F

第1日目 7月19日 金		第2日目 7月20日 土	
第1会場		第2会場	
8:30		8:30~9:10 一般演題3 脊椎感染症 座長：大川 淳	
9:00	8:55~9:00 開会式 9:00~10:04 一般演題1 治療など 座長：須藤 啓広	9:10~9:45 一般演題4 脊椎 SSI 座長：今林 英明	
10:00	10:10~11:20 シンポジウム1 整形外科感染対策における 国際コンセンサス：人工関節周囲 感染を含む筋骨格系感染全般 座長：田中 康仁・稲葉 裕	9:45~10:20 一般演題5 SSI 関連 座長：尾崎 敏文	
11:00	11:20~11:52 一般演題2 基礎・臨床における新知見 座長：市村 正一	10:30~11:10 一般演題6 SSI 予防 座長：鳥居 良昭	10:30~11:30 ハンズオンセミナー3 共催： スミス・アンド・ ネフュー株式会社
12:00	12:00~13:00 ランチョンセミナー1 銀含有ハイドロキシアパタイトコーティ ングインプラントの抗菌性と骨固定性 演者：河野 俊介 座長：稲葉 裕	11:10~11:50 一般演題7 抗菌薬 座長：正岡 利紀	
13:00	13:00~13:45 総 会	12:00~13:00 ランチョンセミナー2 人工股関節周囲感染対策： 診断と治療 演者：内山 勝文 座長：杉山 肇	共催：ジンマー バイオメット 合同会社
14:00	13:45~14:05	13:00~14:20 一般演題8 インプラント感染の診断と治療 座長：稟 賢一 内尾 祐司	
15:00	14:10~15:40 シンポジウム2 SSI 原因菌の侵入経路と その対策 座長：館田 一博 松下 和彦	14:30~15:30 スイーツセミナー Pulsed Xenon Ultraviolet Disinfection - Its Use in Terminal Cleaning in the Hospital Setting 演者：Jason M. Jennings	座長：森兼 啓太 共催：テルモ株式会社
16:00	15:40~16:20 会長特別企画講演 マイクロビータと感染症 演者：國島 広之 座長：松下 和彦	15:30~16:40 シンポジウム3 インプラント術後感染における インプラントの温存 座長：赤木 将男 佐藤 公昭	
17:00	16:30~17:30 アフタヌーンセミナー ガイドラインの変遷 ～現在もっとも必要な SSI 対策は～ 座長：内山 勝文 共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	16:40~16:45 閉会式	
18:00	MSIS 国際コンセンサスから見た SSI の予防と抗菌薬治療 演者：山田 浩司 PJI の診断と治療 ～ICM2018 update と最新知見～ 演者：小林 直実	17:00~19:00 第309回 ICD 講習会 骨軟部腫瘍診療における感染対策 演者：森井 健司 座長：阿部 哲士 AMR (薬剤耐性) に関する 最近の話題 演者：國島 広之 座長：石井 朝夫	
19:00		18:10~ 最優秀ポスター賞授与式	

プログラム

1日目 7月19日(金)

第1会場

8:55~9:00 開会式

9:00~10:04 一般演題1

▶ P86

[治療など]

座長：湊藤 啓広(三重大学 整形外科)

1-1-1 上肢における咬傷(猫 犬)の治療経験
特に抗菌剤の使い方について

藤崎病院 整形外科 大久保 康一

1-1-2 動物咬傷に起因する骨・軟部組織感染症の検討

東京医科大学 茨城医療センター 整形外科 井伊 聡樹

1-1-3 アキレス腱縫合術後感染の治療経験

神戸市立医療センター西市民病院 整形外科 藤原 弘之

1-1-4 後期高齢者における下肢長管骨慢性骨髓炎の治療戦略

東大和病院 整形外科 中川 誉之

1-1-5 化膿性膝関節炎に対する関節鏡視下デブリドマンと
オープンドレナージの治療成績の比較検討

公立岩瀬病院 整形外科 橋本 慶太

1-1-6 術前 CRP 高値を示した高齢者大腿骨近位部骨折手術例の短期術後経過

調布病院 整形外科 渡邊 隼人

1-1-7 ガス壊疽に対する高気圧酸素療法

社会医療法人 川島整形外科 渡邊 裕介

1-1-8 マウスモデルでの表皮ブドウ球菌インプラント感染の検証

京都大学 医学部 整形外科 富澤 琢也

座長：田中 康仁(奈良県立医科大学 整形外科教室)
稲葉 裕(横浜市立大学医学部 整形外科学教室)

**整形外科感染対策における国際コンセンサス：
人工関節周囲感染を含む筋骨格系感染全般**

S1-1 SSI 予防 (MSIS 国際コンセンサス 2018)

関東労災病院 整形外科・脊椎外科 山田 浩司

S1-2 国際コンセンサス 2018 診断 (バイオフィルム)

横浜市立大学 整形外科 崔 賢民

S1-3 国際コンセンサス 2018 ー診断ー

市立奈良病院 整形外科 岩田 栄一朗

**S1-4 感染対策における国際コンセンサス：
人工関節周囲感染の外科的治療について**

北里大学 医学部 整形外科学 内山 勝文

**S1-5 人工関節周囲感染の治療：
治療アルゴリズム、抗菌薬、インプラントに注目して**

金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科 整形外科 井上 大輔

S1-6 悪性骨腫瘍の SSI 対策 ー予防と治療ー

杏林大学医学部 整形外科 森井 健司

[基礎・臨床における新知見]

座長：市村 正一(杏林大学医学部整形外科学教室)

1-2-1 黄色ブドウ球菌は骨細管内に侵入し慢性感染の感染巣となる

京都大学 大学院医学研究科 整形外科 西谷 江平

**1-2-2 バンコマイシンの骨形成阻害作用の解析と阻害緩和能を有する
活性型ビタミン D3 の有用性**

東邦大学医学部 整形外科学講座 辻 健太郎

1-2-3 生体親和性 MPC ポリマー処理縫合糸表面の
細菌付着・バイオフィルム形成抑制効果

東京大学大学院 医学系研究科 整形外科

金子 泰三

1-2-4 手術終了時正常体温 ($\geq 36^{\circ}\text{C}$) は術後 30 日以内死亡リスクを軽減する

関東労災病院 整形外科・脊椎外科

山田 浩司

12:00～13:00 **ランチョンセミナー1**

▶ P26

座長：稲葉 裕 (横浜市立大学医学部 整形外科学教室)

LS1 銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングインプラントの
抗菌性と骨固定性

河野 俊介 佐賀大学医学部 人工関節学講座

共催：京セラ株式会社

13:00～13:45 **総会**

13:45～14:05 **日本骨・関節感染症学会 奨励賞(大正 Award)授与式・受賞者記念講演**

司会：市村 正一 (杏林大学医学部 整形外科学教室)

超音波処理による整形外科インプラント周囲感染診断と今後の展望
—超音波処理後培養検査・PCR・次世代シーケンサー
(Next Generation Sequencing: NGS)による新規診断法—

植田 成実 関西医科大学 整形外科

14:10～15:40 **シンポジウム2**

▶ P54

座長：館田 一博 (東邦大学 微生物・感染症学講座)

松下 和彦 (川崎市立多摩病院 (指定管理者：聖マリアンナ医科大学) 整形外科)

SSI 原因菌の侵入経路とその対策

S2-1 清潔整形外科手術における術野汚染の現状

関東労災病院 整形外科・脊椎外科

山田 浩司

- S2-2** 腸管内定着菌による内因性感染
東北医科薬科大学大学院薬学研究科 臨床感染症学教室 藤村 茂
- S2-3** SSI 原因菌の侵入経路 —上気道粘膜からの侵入—
聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座 鳥居 良昭
- S2-4** MRSA 鼻腔内保菌者対策
兵庫医科大学 感染制御学 竹末 芳生
- S2-5** SSI 予防・対策として有効な新戦略
東邦大学医学部 微生物感染症学講座 舘田 一博
- S2-6** 整形外科領域の SSI と医療経済
九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 医療経営学分野 福田 治久

15:40～16:20 **会長特別企画講演** ▶ P38

座長：松下 和彦（川崎市立多摩病院（指定管理者：聖マリアンナ医科大学）整形外科）

マイクロビオータと感染症

國島 広之 聖マリアンナ医科大学 感染症学講座

共催：ミヤリサン製薬株式会社

16:30～17:30 **アフタヌーンセミナー** ▶ P30

座長：内山 勝文（北里大学医学部 整形外科学）

ガイドラインの変遷 ～現在もっとも必要な SSI 対策は～

AS1 MSIS 国際コンセンサスから見た SSI の予防と抗菌薬治療

山田 浩司 関東労災病院 整形外科・脊椎外科

AS2 PJI の診断と治療 ～ICM2018 update と最新知見～

小林 直実 横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科

共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

第2会場

14:10～15:10 **ハンズオンセミナー1**

骨・関節感染症における運動器エコーの活用術

講師 今村 恵一郎 今村整形外科・外科 院長

共催：株式会社日立製作所／日本シグマックス株式会社

16:00～17:00 **ハンズオンセミナー2**

わかる！出来る！V.A.C.[®] Therapy ～ゼロからNPWT instillation and dwelling まで～

講師 遠藤 渉 聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座

共催：ケーシーアイ株式会社

17:30～18:10 **ポスター発表1**

▶ P98

[上肢・脊椎 I]

座長：井澤 一隆 (国立病院機構大阪刀根山医療センター 整形外科))

P1-1 犬咬傷により発症した指骨骨髓炎に対し閉鎖性持続洗浄装置を用いた治療した一例

聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座

寺内 昂

P1-2 *Mycobacterium fortuitum* による腱鞘滑膜炎から小指伸筋腱断裂をきたした症例

聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座

小山 亮太

P1-3 非連続性かつ3レベルに発症した化膿性脊椎炎の1例

聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座

飯沼 雅央

P1-4 感染性心内膜炎を合併した化膿性脊椎炎3例の検討

防衛医科大学校 整形外科学講座

脇田 晃充

[上肢・脊椎Ⅱ]

座長：石井 朝夫(東京医科大学茨城医療センター 整形外科)

P1-5 完全麻痺を生じた若年者の結核性脊椎炎に対して
手術・投薬治療にて良好な結果を得た1例

聖マリアンナ医科大学 整形外科講座

梅原 亮

P1-6 スポーツを契機に生じた小児筋骨感染症の2例

星ヶ丘医療センター 整形外科

松本 真一

P1-7 化膿性恥骨結合炎の3例

岐阜県立多治見病院

大野 祐輔

P1-8 敗血症を繰り返す難治性骨軟部組織感染症に対する iMAP/iSAP の可能性

千葉大学 整形外科

姫野 大輔

17:30～18:10 **ポスター発表2**

▶ P106

[下肢・診断Ⅰ]

座長：瀬戸口 啓夫(鹿児島赤十字病院 第一整形外科)

P2-1 踵骨骨折術後に骨髓炎を生じ治療に難渋した1例

国家公務員共済組合連合会 呉共済病院

岡田 芳樹

P2-2 関節鏡視下デブリドマンが有用であった
化膿性足関節・距骨下関節炎の1例

聖マリアンナ医科大学 整形外科講座

大橋 優子

P2-3 人工膝関節全置換術後の感染に対し感染症科の医師と連携し
治療を行った1例

厚生中央病院 整形外科

宮本 哲

P2-4 関節リウマチに対する免疫抑制療法中に人工関節感染を繰り返し、
多発性骨髓炎に至った1例

松山赤十字病院 リウマチ膠原病センター

水木 伸一

[下肢・診断Ⅱ]

座長：石橋 恭之（弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座）

P2-5 炎症所見の乏しい慢性再発性多発性骨髓炎の1例

東京医科大学茨城医療センター 整形外科

渡邊 優

P2-6 リンパ浮腫に併発した非定型大腿骨骨折術後晩発性骨髓炎の1例

東大和病院 整形外科

阿部 幹

P2-7 A群レンサ球菌による重症壊死性軟部組織感染症の1例

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 生体機能再生・再建学講座 整形外科

松橋 美波

P2-8 超音波処理法による骨・軟部組織感染症の診断（2例報告）

関西医科大学総合医療センター 整形外科

外山 雄康

18:10～

最優秀ポスター賞授与式

8:30～9:10

一般演題3

▶ P116

[脊椎感染症]

座長：大川 淳(東京医科歯科大学大学院 整形外科学分野)

- 2-3-1** 化膿性脊椎炎の病理組織診断についての検討
—多形核好中球浸潤数による診断基準の作成—

市立奈良病院 整形外科 岩田 栄一郎

- 2-3-2** 致命的転帰をたどった化膿性脊椎炎の検討

久留米大学病院 高度救命救急センター 後藤 雅史

- 2-3-3** 化膿性脊椎炎における経皮的病巣搔爬ドレナージ不応例に対する
術式選択の検討

済生会福岡総合病院 整形外科 松原 庸勝

- 2-3-4** 化膿性脊椎炎の治療期間の検討
—治療期間からみえる今後の課題—

防衛医科大学校 医学科 整形外科学講座 今林 英明

- 2-3-5** 脊椎結核治療における paradoxical reaction

国立病院機構 大阪刀根山医療センター 整形外科 井澤 一隆

9:10～9:45

一般演題4

▶ P121

[脊椎 SSI]

座長：今林 英明(防衛医科大学校 整形外科学講座)

- 2-4-1** 脊椎外傷手術後の手術部位感染のリスク因子

東京医科大学 整形外科学分野 村田 寿馬

- 2-4-2** 頸椎椎弓形成術後手術部位感染例の周術期血液データの検討

弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座 武田 温

- 2-4-3** 脊椎手術後の術後炎症に伴う好中球・リンパ球数の変動に影響を与える
因子の解析 —宿主の術前の栄養・免疫状態が術後の好中球・リンパ球の
推移に影響を及ぼす—

防衛医科大学校 医学科 整形外科学講座 今林 英明

2-4-4 脊椎手術部位感染における入院長期化の危険因子についての検討

奈良県立医科大学 整形外科

山本 雄介

9:45～10:20

一般演題5

▶ P125

[SSI 関連]

座長：尾崎 敏文(岡山大学医学部 整形外科学教室)

2-5-1 整形外科領域における抗菌薬適正使用支援

～整形外科 ICD、病棟薬剤師、抗菌薬適正使用支援チームの連携～

川崎市立多摩病院(指定管理者：聖マ医大) 薬剤部

松本 浩

2-5-2 手術室における手指衛生遵守率

青森市民病院 整形外科(感染管理室)

塚田 晴彦

2-5-3 骨巨細胞腫手術の手術部位感染の実態調査

杏林大学 医学部 整形外科

森井 健司

2-5-4 悪性軟部腫瘍切除における周術期感染発症のリスクファクターについて

— The Geriatric nutritional risk index (GNRI) の有用性 —

鹿児島大学大学院 整形外科

佐々木 裕美

10:30～11:10

一般演題6

▶ P129

[SSI 予防]

座長：鳥居 良昭(聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座)

2-6-1 外反母趾手術における手術部位感染の検討

— 術直前のブラッシングは有用なのか —

聖マリアンナ医科大学 整形外科学講座

葛西 亨

2-6-2 イソジン入り生理的食塩水を用いた人工膝関節術中洗浄の安全性

福井総合病院 整形外科

尾島 朋宏

2-6-3 人工膝関節置換術後の感染予防

八木整形外科病院 整形外科

小野寺 伸

2-6-4 THA 患者における鼻腔内保菌の再検出率

神奈川リハビリテーション病院 整形外科

戸野塚 久紘

2-6-5 術前 MRSA 鼻腔内保菌の患者背景における危険因子についての検討
—target screening に役立つ患者因子—

宇陀市立病院 整形外科 上野 優樹

11:10～11:50 **一般演題7**

▶ P134

[抗菌薬]

座長：正岡 利紀(東京医科大学 整形外科学分野)

2-7-1 骨・軟部組織感染症に対する局所高濃度持続抗菌薬注入療法の治療成績

産業医科大学 整形外科 善家 雄吉

2-7-2 筋骨格系外傷術後感染に対する高濃度抗生剤局所投与の治療成績

湘南鎌倉総合病院 外傷センター 長谷川 真之

2-7-3 人工股関節周囲感染患者における Daptomycin の
術後股関節腔移行性についての検討

北里大学 医学部 整形外科学 池田 信介

2-7-4 当院における抗 MRSA 薬投与の工夫

関東労災病院 整形外科・脊椎外科 山田 浩司

2-7-5 人工膝関節置換術におけるバンコマイシンの創内使用の効果の検討

浜松医科大学 整形外科 花田 充

12:00～13:00 **ランチョンセミナー2**

▶ P28

座長：杉山 肇(神奈川リハビリテーション病院 病院長)

LS2 人工股関節周囲感染対策：診断と治療

内山 勝文 北里大学 医学部 整形外科学

共催：ジンマーバイオメット合同会社

[インプラント感染の診断と治療 I]

座長： 莫 賢一（関西医科大学 整形外科学教室）

2-8-1 整形外科領域感染症における増菌培養陽性症例の特徴

横浜市立大学 医学部 整形外科 渡部 慎太郎

2-8-2 全自動遺伝子解析装置 GENE CUBE を用いた
Staphylococcus 属検出限界の検討

横浜市立大学附属病院 臨床検査部 友山 瑛人

2-8-3 抗菌薬含有セメント留置後、二期的人工股関節全置換術を施行した
成人化膿性股関節炎の3例

東京医科大学 医学部 整形外科分野 鎌田 浩亮

2-8-4 易感染性宿主に対する人工膝関節置換術における
抗菌薬含有骨セメントの使用経験

川崎市立多摩病院 整形外科（指定管理者：学校法人聖マリアンナ医科大学） 大沼 弘幸

2-8-5 人工股関節周囲感染に対し抗菌薬含有セメントを用いた外科的治療の検討

香川大学 医学部 整形外科教室 畠村 将志

[インプラント感染の診断と治療 II]

座長： 内尾 祐司（島根大学医学部 整形外科学教室）

2-8-6 当院におけるセメントペースト作製器の使用経験

筑波大学 医学医療系 整形外科 寺村 晋

2-8-7 2 期的再置換術におけるオゾンナノバブル水を用いた局所持続洗浄療法

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院 永芳 郁文

2-8-8 術後深部感染症に対する抗菌剤治療中に生じた薬剤熱の臨床的特徴

高知大学 医学部 整形外科 喜安 克仁

2-8-9 骨折内固定後の手術部位感染例におけるインプラント抜去に関する検討

帝京大学 医学部附属病院 外傷センター 鈴木 卓

2-8-10 人工関節周囲感染に対するインプラント温存治療成功に関連する要因の検討

松山赤十字病院 リウマチ膠原病センター 水木 伸一

座長：森兼 啓太(山形大学 検査部・感染制御部)

SS Pulsed Xenon Ultraviolet Disinfection - Its Use in Terminal Cleaning in the Hospital Setting

Jason M. Jennings Colorado Joint Replacement, Denver, CO

共催：テルモ株式会社

座長：赤木 将男(近畿大学医学部 整形外科科学教室)
佐藤 公昭(久留米大学医学部 整形外科科学教室)

インプラント術後感染におけるインプラントの温存

S3-1 TKA 術後の感染対応

聖マリアンナ医科大学 整形外科科学講座 木城 智

S3-2 感染人工膝関節に対するインプラント温存の治療成績

坂下厚生総合病院 整形外科 菊地 忠志

S3-3 大阪府下の5大学病院における人工膝関節置換術感染 Registry —運用後4年の中間報告—

大阪大学大学院 医学系研究科 器官制御外科学(整形外科) 玉城 雅史

S3-4 骨に固着したセメントレスステムを温存して articulating cement spacer を応用した人工股関節感染の治療

東京慈恵会医科大学 整形外科 羽山 哲生

S3-5 インプラント包埋法による脊椎インストゥルメンテーションの温存

がん・感染症センター 都立駒込病院 整形外科・骨軟部腫瘍科 穂積 高弘

S3-6 iMAP iSAP を用いた骨接合後感染における インプラント温存しての感染制御

製鉄記念広畑病院 整形外科 圓尾 明弘

16:40～16:45 **閉会式**

17:00～19:00 **第309回 ICD 講習会**

▶ P80

座長：阿部 哲士(帝京大学医学部 整形外科学講座)

骨軟部腫瘍診療における感染対策

森井 健司 杏林大学 整形外科

座長：石井 朝夫(東京医科大学茨城医療センター 整形外科)

AMR(薬剤耐性)に関する最近の話題

國島 広之 聖マリアンナ医科大学 感染症学講座

第2会場

10:30～11:30 **ハンズオンセミナー3**

創外固定装着時のNPWT ドレーピングテクニック

講師 安田 知弘 昭和大学藤が丘病院 整形外科

共催：スミス・アンド・ネフュー株式会社

ランチョンセミナー

アフタヌーンセミナー

スイーツセミナー

LS1 銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングインプラントの抗菌性と骨固定性

○河野 俊介(かわの しゅんすけ)¹⁾、馬渡 正明²⁾

1) 佐賀大学医学部 人工関節学講座

2) 佐賀大学医学部 整形外科

インプラント周囲感染は複数回の手術を要することもある重篤な合併症であり、感染予防を目的に様々な抗菌剤を用いた抗菌インプラントの開発が行われている。無機系抗菌剤の銀は強い抗菌性と広い抗菌スペクトルもち、毒性が比較的 low、耐性菌が発生しにくく、既に臨床応用されている。銀含有ハイドロキシアパタイト (Ag-HA) 抗菌コーティング技術は、銀の抗菌性能とハイドロキシアパタイトの骨伝導性・固定性能を併せ持っており、in vitro の擬似生体環境下で大腸菌、黄色ブドウ球菌ならびにメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) に対して ISO 22196 抗菌試験法にて抗菌活性6を超える高い抗菌性を有している。in vivo のラットを用いた MRSA 生細菌数測定において骨髓炎・血行モデルともに Ag-HA 被膜の生菌数は HA 被膜の生菌数よりも有意に少なく、生体での抗菌性も確認されている。また Ag-HA 被膜はバイオフィルムの形成阻害効果も有しており、その効果はバンコマイシンを併用することで増強される。骨固定性は、in vitro で3%Ag-HA 被膜は HA 被膜と同様に骨芽細胞前駆細胞株の細胞接着・分化・増殖がおこるが、濃度依存的に阻害される確認されている。in vivo 病理組織学的観でも3%Ag-HA 被膜は HA 被膜同様に新生骨の形成・接触が観察され、50%Ag-HA 被膜では新生骨の形成が大幅に低下していた。臨床の抜去品調査では、人工股関節置換術後2か月でコーティング内への骨固着が確認されている。

Ag-HA コーティングインプラントは in vitro、in vivo にて良好な抗菌性と骨固定性、安全性が確認されており、2016年4月より世界初のセメントレス抗菌人工股関節 (AG-PROTEX[®]) として販売が承認され臨床でも骨固定性と安全性が確認されている。Ag-HA コーティングは術後早期の感染リスクが高い期間において、術中の落下菌・術創から侵入した細菌に対し抗菌効果が期待できる。しかし現在 Ag-HA がコーティングされているインプラントは人工股関節の一機種のみであり、人工膝関節や脊椎インプラント、骨接合材料、口腔内インプラント等へ適用を拡大し、インプラント関連術後感染予防に寄与する事が期待される。

略 歴

- 1998年 佐賀医科大学医学部医学科 卒業
- 1998年 佐賀医科大学医学部整形外科 医員（以後複数施設で研修）
- 2005年 佐賀大学医学部整形外科 助教
- 2006年 我汝会えにわ病院整形外科
- 2007年 多久市立病院整形外科 部長
- 2008年 佐賀大学医学部整形外科 助教
- 2018年 佐賀大学医学部人工関節学講座 講師
- 2019年 佐賀大学医学部人工関節学講座 准教授（現職）

資 格

- 1998年 医師免許取得
- 2005年 日本整形外科学会専門医 取得
- 2008年 日本整形外科学会認定リウマチ医 取得
- 2013年 医学博士学位取得（佐賀大学）

学会・研究会

- 日本整形外科学会
- 日本股関節学会
- 日本人工関節学会 評議員
- 日本骨折治療学会
- 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
- 日本骨・関節感染症学会
- 西日本整形・災害外科学会
- 佐賀骨折治療研究会 世話人

賞 罰

- 2016年 第54回日本人工臓器学会大会 技術賞

A series of horizontal dashed lines for writing.

1 目 目

1-1-1 上肢における咬傷(猫 犬)の治療経験 特に抗菌剤の使い方について

○大久保 康一(おおくぼ こういち)、別府 諸兄
藤崎病院 整形外科

【目的】上肢における咬傷(猫 犬)の治療経験、特に抗菌剤の使い方の留意点について報告する。

【対象と方法】症例は57例、女40例、男17例、受傷時年齢平均62.2か月(17～86歳)、猫51例、犬6例。初診時使われた抗菌剤の種類とその効果について、又猫7匹、犬8匹の口腔内細菌の種類とその感受性について検索した。さらに症例の重症度をを3型に分類、軽症：内服の抗菌剤を変えて鎮静化したもの、中症：抗菌剤を注射にかえて投与し、注射終了後内服としたもの、重症：感染兆候が改善せず、XP、CT、MRIで病巣を確認し、病巣搔爬を必要としたものなどについて検討した。

【結果と考察】初診時処方された抗菌剤の内訳は、セフェム系44例77%、ペニシリン系9例、ニューキノロン系2例、テトラサイクリン系1例ニューキノロン系とテトラサイクリン系併用1例であった。初診時処方された抗菌剤で治癒した症例は57例中41例で、その78%がセフェム系を利用していた。猫犬の口腔内細菌はいろいろ菌が検出されたが、Pasteurell菌の検出率は猫100%、犬50%であった。感染兆候が発症した症例は57例中16例で、初診時処方された抗菌剤は75%がセフェム系をが処方されていた。細菌培養検査は16例中8例に行い、同定できた症例は6例で、Pasteurell菌のは4例であった。感染兆候のが発生した症例の内訳は、軽症5例、中症8例、重症3例で、重症例は病巣搔爬を行い鎮静化し、再発はなかった。初診時使いやすい抗菌剤(セフェム系)を処方してもよいが、3日後には必ず再診して、感染兆候があれば抗菌剤はを要する必要がある。起炎菌がPasteurell菌を主体とする混合感染であってもその選択はニューキノロン系かテトラサイクリン系とすることが妥当である。

第42回 日本骨・関節感染症学会
プログラム・抄録集

会 長：松下 和彦

事務局：聖マリアンナ医科大学整形外科学講座

担当：平野 貴章

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1

TEL：044-977-8111（内線3435） FAX：044-977-9683

E-mail：42kansen@marianna-u.ac.jp

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://secand.jp/>

